

すべての人民の健康は
世界の平和と安全を達成する基礎である

発刊に際して

WHOは世界人類の保健と衛生を担う国際的専門機関でその目的は人びとが健康を築きつつ歳月を過ぎるに社会国家に安んずる人類の平和に貢献しようとするものである。およそ、その目的が、その社会が安んずるためには人びとが心身ともに健康である必要があるのであるが、WHOはこうした意味で保健衛生の推進を目標に1948年に発足し今日では世界129ヶ国が加盟しており、わが国も昭和26年に加盟してその高い文化と進んだ医学とで世界の人びとの長寿と健康のために多くの貢献をしているのである。

昔から人生50年といわれているが今日では人生は70年中60年かも知れない。かように平均寿命の伸びたこととは即ち各人の健康度が著しく上昇したということであり、喜ばないが、しかし同じ健康といっても人びとによって程度があり程度がある。つまり健康度が異なる状態からわずかに健康を保っている程度もあり、健康に傾斜を帯びているものもある。また健康は単に肉体的だけではなく精神的作用が大いに関係するし、その保健衛生上の手段も多岐にわたる。こう考えるとWHOの使命も多岐にわたるを得ない。

「目で見えるWHO」はこうした見地からその目的と手段を簡明に示すこととしたもので、首領は一見に如かずである。

日本WHO協会の今年の方針は「みんなで築こうとする健康」であるがこうした目標は大衆に受け入れられなければならない。マスコットの自費と協力を基盤として達成されるのである。こうした意味からも大衆と共に歩むべき地味な活動が、日本WHO協会の趣旨に深く理解をいただき、協会育成に多大のご支援を賜ったことを深く感謝するとともに、こうした小冊子がこの遠大な目標のPRに、またその達成に効果的な寄与をもたらし、人びとの健康への道しるべとなれば幸であり、大方のご協力をお願いいたします。

日本WHO協会 会長
中野 種一郎

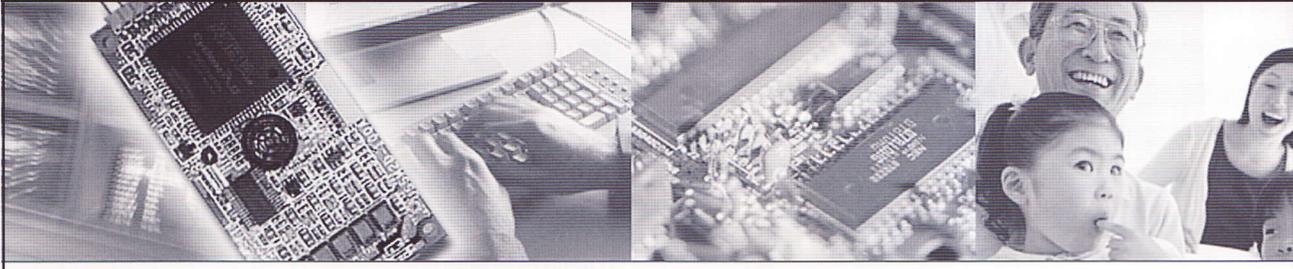
WHOと敬事
WHO（世界保健機関）とは、国連の傘下のうち保健衛生の分野を
受け持つ専門機関で World Health Organization の訳名である。WHO
は「世界保健機関」を意味する。WHOの本部はジュネーブにある。
WHOの目的は人類の健康を促進すること、世界の平和を促進する
ことにある。WHOは、国連の傘下にあり、国連の精神と一致し、WHO
の目的を達成するために、WHOの活動を推進するものである。

事務局からお願い

これは昭和43年(1968)に発刊された「目で見えるWHO」の創刊号の第1ページです。順次、電子化してウェブサイトに掲載して、皆様にもご覧いただけるようにしたいと存じます。ところで、現在事務局には「目で見えるWHO」第13号(昭和55年、1980年刊)がございません。もし保存されておられたら、是非ご連絡くださいますようお願いいたします。

社団法人日本WHO協会事務局

「創造」すること、それが私たちのDNA



私たちは、お客様のニーズに合わせたソリューションを提供いたします。

組み込み開発
ハードウェア開発
画像／音声処理

お客様のニーズに応じて、電気系のシステム設計から基板試作、実装・組立、試験・評価までの開発、機構系では成形金型によるケース開発のサポートをいたします

2次元/3次元超音波センサ・位置計測システム 脳波センサ FPGA回路設計 ASIC開発 ソフトウェア開発

WEB開発・生産管理

低コストで短時間に導入でき、効果が直ぐに検証できるWEBベースの業務支援アプリケーションを提案し、お客様の日常業務の効率化に貢献します。

技術・ノウハウ・コツ伝承システム GPSを利用した位置探索ASPサービス 特定保健指導支援システム eラーニングサービス WEB会議 ホームページ構築 ショッピングサイト構築 生産管理システム

組み込み開発・ハードウェア開発・画像／音声処理・WEB開発・生産管理

Proassist 株式会社プロアシスト

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-3-9 星和高麗橋ビル1F
TEL 06-6231-7230 FAX 06-6231-7261
URL : <http://www.proassist.co.jp>

前号(第42号 新春号)のあらまし

WHO憲章
ごあいさつ
(社)日本WHO協会の沿革
新型インフルエンザ対策セミナーの報告
インフルエンザと健康危機管理
企業と危機管理、そして健康危機管理時代へ 更家 悠介
インフルエンザと健康
豚由来(A/H1N1)新型インフルエンザ対策 朝野 和典
インフルエンザと健康
インフルエンザワクチンの製造と課題 奥野 良信
世界の健康
フィリピンの離島における先住民の子どもたちの
保健衛生習慣 カルヴィン・デ・ロス・レイエス
クラフォード賞受賞記念
関節リウマチとインターロイキン6
-守ってくれる免疫・攻撃する免疫- 平野 俊夫
事務局便り・開催予定セミナー情報

前々号(第41号 秋号)のあらまし

WHO憲章
ごあいさつ
(社)日本WHO協会の沿革
第二回健康セミナー 「癌の防ぎ方、見つけ方」
松浦 成昭
飲料水と健康
浄水処理の新概念
-WHOの飲料水ガイドラインの遵守を目指して-
落合壽昭・宇山 浩・木内正人
国際保健協力
健康なアフリカ社会をめざす国際シンポジウム報告
水元 芳・中村 安秀
保健と健康
わが国におけるたばこ規制の現状と課題 大島 明
共催事業・後援事業
委員会構成・事務局便り・開催予定セミナー情報

●社団法人 日本 WHO 協会 事務局だより

3月27日に開催された臨時社員総会で、①WHO啓発 ②研究・提言 ③連携・協力 ④支援・募金 ⑤援助・育成 ⑥その他、6事業からなる新年度事業計画・予算が承認されるとともに、定款の改定についても協議されました。公益法人に適合する体制整備を図るもので、それら変更内容を運用しながら公益法人への基盤整備と認定手続きへの準備を進めることとなりましたが、その中で会長、副会長呼称も理事長、副理事長に改めることとし、当日の理事会で選任、総会で承認を受けた関淳一理事長、更家悠介副理事長の新体制が4月1日よりスタートしました。

「目で見える WHO」の復刊、定期健康セミナー開催、大阪及び東京でのインフルエンザ対策セミナー開催などで活動を徐々に復興させてきた当協会も新しい体制下、いよいよ本来の事業目的に沿った本格活動を展開していきたいと考えていますので、一層のご支援ご協力をお願い致します。

第6回 日本WHO協会定期健康セミナー

日時：平成22年5月8日(土)
17:00～18:30

場所：大阪市立大学医学部学舎4F
「小講義室1」TEL 06-6645-3605

正面玄関閉鎖につき地下1階玄関(通用口)からお入り下さい。

大阪市阿倍野区旭町1-4-3「天王寺駅」西へ徒歩5分

テーマ：「疲労の科学と疲労克服」

講師：渡辺 恭良 先生

定員：先着100名 会費：無料

(参加ご希望の方はファックス 06-6944-1136 等でご連絡ください。)

